

2026年4月1日改定

適正取引の推進に向けた自主行動計画

一般社団法人 日本オフィス家具協会

I. 自主行動計画策定の目的

オフィスは、多くの人にとって働く場であり、人生の中で多くの時間を過ごす場である。近年は、働き方改革やテレワークの普及により働き方が大きく変化し、加えて人材確保への手段として、オフィスへの投資が活発になっている。そのため、当業界は旺盛なオフィス需要により、活況を呈している。

一方で、オフィス関連業界は、原材料やエネルギーコストの高騰、人手不足などの課題にも直面している。その中で、持続的な成長を維持するためにも、業界がウェルビーイングを維持することが重要である。そのため、企業として適正な利益を確保し、その従業員の生活を向上させながら、サプライチェーン全体を健全な形で構築することが求められている。

この自主行動計画は、一般社団法人日本オフィス家具協会（以下、JOIFAという。）が、当業界における企業間の取引の適正化を図ることを目的として策定する。特に、経営基盤の脆弱な中小企業が、発注者と十分に協議を行う機会を得、持続的に成長できる環境を築けることに留意する。適正取引にかかる関係法令および政府方針をJOIFA会員に周知し、自社だけでなくサプライチェーン全体を俯瞰して、業界全体の健全な発展を実現したい。

※適正取引にかかる関係法令および政府方針

私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（独占禁止法）

製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律(以下、取適法)および同運用基準

受託中小企業振興法（振興法）および振興基準

中小企業庁・公正取引委員会「下請代金の支払い手段について」

経済産業省「未来志向型の取引慣行に向けて」「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」等

II. 適用範囲

この自主行動計画は、オフィス構築に関わるサプライチェーンのうち、資本金3億円以下または従業員300人以下の企業、または個人事業者を受注者とした製造委託、修理委託、役務提供委託、特定運送委託のすべての取引を対象とする。また、製造委託は、発注者が独自に仕様を指定した完成品、部材を対象とし、受注者が仕様を決めて広く販売する標準品は含まない。役務提供委託には、貨物運送業務を含み、建設業法に規定される建設工事は対象外とする。

III. 各プロセスにおける取組

1. 価格決定

- ① **【取引価格決定】** 取引価格は、原材料費、労務費、エネルギー費、減価償却費、その他諸経費を元に合理的に算出し、発注者と受注者が合意して決定する。価格決定後は、速やかに内容を反映した書面（または電磁的記録）を交付する
- ② **【定期的な見直し】** 取引価格について、発注者は、受注者がコストの増加による価格の変更を申し出し易い環境を設ける。そのために、発注者は年1回以上受注者に対し文書または電子メールで協議を呼び掛け、受注者から申し出があった場合は速やかに協議を実施し、その内容を記録する。
- ③ **【急激なコストの上昇】** ②の定期的な見直し以外に、受注者からコストの急激な上昇を理由に価格の見直しの要請があった場合、発注者は協議に応じ、取引価格への適切な反映を行う。特に原材料費やエネルギー費の高騰があった場合には、その影響を精査し、コスト増加分の全額転嫁を目指す。受注者からの値上げ要請を拒否したり、一部しか認めなかった場合、発注者はその理由と根拠を回答する。
- ④ **【労務費の上昇】** 「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」（内閣官房・公正取引委員会。以下「労務費の指針」という。）に掲げられている、「事業者が採るべき行

動／求められる行動」を適切にとった上で、取引対価を決定する。その際、「労務費の指針」別添「価格交渉の申込み様式」の活用も併せ、労務費の上昇分を適切に転嫁できるよう協議する。特に、最低賃金の引上げ、人手不足への対処等、外的要因により受注者の労務費の上昇があった場合には、その影響を十分に踏まえる。

- ⑤ **【コストダウン】** 発注者は、合理的な理由なく一方的に自己都合のみによる価格の引き下げを要請しない。発注者の協力（大量発注や受入条件の緩和、工程見直し等）により受注者のコスト削減を図った場合は、その原価低減活動の効果を十分に確認して価格に反映させる。その際に、受注者の貢献度を考慮した上で価格を決定するものとし、受注者の努力によるコスト削減効果を一方的に取引価格に反映させないようにする。また、原材料費やエネルギー費の下落や為替変動など、合理的な理由によるコスト削減は、双方の協議により取引価格に反映させる。
- ⑥ **【物流費】** 物流費については、荷主事業者と物流事業者が取り組むべき事項をまとめた「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン（経済産業省、農林水産省、国土交通省）」を参照し、適正な運賃水準を反映するよう十分に協議を行う。また、荷待ち時間・荷役時間の削減、契約外の付帯作業の原則禁止など、

物流負荷を軽減するための運用改善を共に行うものとする。
さらに、業界固有の物流業務に関しては、「オフィス家具業界の物流対策自主行動計画（JOIFA）」を遵守する。

2. 支払条件

- ① 決済手段については、できる限り現金払いとし、振込手数料は発注者負担とする。
- ② 約束手形による支払いは、2026年1月1日以降は廃止する。
- ③ すべての支払いは、製品または役務の受領日（納品日）から60日以内に完了する。

3. 知的財産の取扱

- ① 発注者と受注者双方は、知的財産（特許権、実用新案権、著作権、意匠権、商標、営業秘密等）やノウハウを取引上扱う場合には、「振興基準（中小企業庁）」に定める内容のほか、「知的財産取引に関するガイドライン（中小企業庁）」に基づいた取引を行うものとする。
- ② 発注者は、契約上知りえた受注者の知的財産やノウハウの取り扱いについて、受注者に損失を与えることがないように十

分に配慮する。

- ③ 発注者は受注者に対して秘密情報の提供や開示を強要してはならない。また、契約上知り得た受注者の知的財産等やノウハウについて無断で使用、開示してはならない。さらに、受注者に帰属する知的財産権の無償譲渡や無償の実施許諾を求めてはならない。
- ④ 受注者は、自己の所有する知的財産について、特許権、実用新案権、著作権、意匠権、商標等の権利の取得、秘密保持契約による営業秘密化等により、管理保護に努める。

4. 金型等の扱い

- ① 取引に際し、金型、樹脂型、木型、専用治具、専用設備（以下、金型等とする。）を必要とする場合は、製作費の負担について事前に協議し、取引条件として書面化する。
- ② 金型等の費用を発注者が負担する場合は、量産開始時までに一括支払いに努める。また、受注者の資金繰りを考慮して、要請があれば一部前払いも検討する
- ③ 量産が終了した金型等は、保守部品の供給期間を考慮して、廃棄時期を決定する。その間の金型等の保管費用は、発注者が適正に負担する。なお、JOIFAの基準では保守部品の供給

期間は製造中止後5年以上とする。

IV. JOIFAの取り組み

- ① JOIFAは、自主行動計画に掲げた事項が実行され浸透するように、会員企業に対して調査を行い、実施状況のフォローアップを行う。
- ② JOIFAは、会員に対してパートナーシップ構築宣言の実施を促し、すでにパートナーシップ構築宣言を実施している企業に対しては、宣言ひな形の改定や事業環境の変化に応じて見直しを行うように努める。
- ③ JOIFAは、適正取引や生産性・付加価値向上についてのセミナーや研修等を開催し、会員の理解促進を図る。
- ④ JOIFAは、適正取引にかかる関係法令および政府方針の変更や事業環境の変化に合わせて、この自主行動計画を見直す。